

カラスとハトの話

片野修

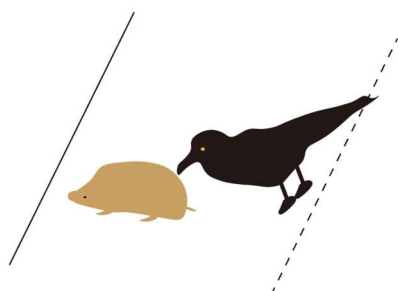
ズキンガラスの親切

最近、シジュウカラが言葉を話すことが世界的に注目されているが、その背景には鳥の知能が高いことがある。その点で、カラスはとくに賢い鳥であることが知られている。クルミなどの実をコンクリート道路に置いて、車に割らせる行動は誰でも知っているだろう。道路の上に落ちた餌は見つけやすいので、カラスが集まっていることが多い。

カラスについて世界的に注目されている動画がある。「道路を横断する臆病なハリネズミを助けるズキンガラス」というタイトルにあるように、ヨーロッパのある道路の中央を歩いているハリネズミのお尻をカラスがつつき、はやく道路から出るように促しているように見える。この行動は、ハリネズミが道路の端にたどりつくまで続いたので、このカラスは道路の真ん中にいたら車に轢かれてしまうと思ってハリネズミを助けた親切な個体だと考えられている。

この解釈には異論もあって、カラスは単にハリネズミを攻撃しているのではないかと言う人もいる。攻撃性の強い個体は、弱そうな動物を攻撃して満足することがあるので、この考えも成り立つかもしれない。あるいは、この道路の一面は、このカラスにとって縄張りであって、そこに侵入する動物を追い出したかったのかもしれない。何か良い餌が落ちてきたり、車から投げられたりしたときに、それをハリネズミに取られる恐れもあったかもしれない。木の実を置いて、それが車に轢かれて割れたときに、ハリネズミに食べられないとも限らない。

カラスとハリネズミ



あるいは、このカラスは寂しがりで、友達がおらず、ハリネズミに親近感をもったのかもしれない。自分に危害を与える恐れがないハリネズミを見て、かまってもらいたかった、あるいは遊びたいと思ったという解釈も考えられる。動物だって、衣食住が足りているときに、退屈を感じて遊びたいと考えても不思議ではない。

もし、このカラスがきれい好きで、道路が汚れることを嫌ったとしたら、ハリネズミが車

に轢かれてぐちゃぐちゃにつぶれることを避けたかったとも考えられる。もちろん、親切なカラスという解釈も有力である。

これらの仮説のどれが正しいのかを、この動画だけから確定することはできない。それではどうしたらよいのか。まずこの道路で、カラスを個体識別したうえで、繰り返し観察することが必要である。ハリネズミに対する行動を観察することができれば最善であるが、それがむずかしければ、ハリネズミのモデルを置いたり、他の動物、たとえばネズミやカメを置いてみたりするのもよいかもしれない。

攻撃性や親密性を示すのであれば、他の動物にもそれを見せるかもしれない。縄張りを守っていたのであれば、ほかのカラスも追い払うはずである。汚れるのが嫌ならば、ゴミをまいて反応を見る方法もあるだろう。

このカラスがほんとうに親切な個体であれば、他の動物や他のカラスにもやさしく接するはずである。そして、別の個体についても観察することによって、このカラスが特有の個性をもっているのか、そうではなくてこの種類のカラスはどれも同じ行動を示すのかも解明されるかもしれない。

公園のドバト

先日、東京の小劇場に舞台を見に行った際、開場まで時間があつたので、小さな公園のベンチで待つことにした。植物が多く、気持ちの良い公園だった。ベンチに座ってみると、ドバトが歩いたり飛んだりしていることに気がついた。「ハトに餌をやらないでください」という看板があつたが、餌をやる人もいるのかもしれない。

公園でドバトが歩き回るのは、見慣れた光景である。ドバトは人を恐れず、足元近くにまで寄ってくる。人がベンチに座って何かを食べたときに、残飯やおかしのかけらが落ちるのかもしれない。

この公園で、私の1mほど先でじっとしているドバトがいた。しかも片足で立っている。はじめ、このハトは怪我をしていて、片足なのかもしれないと思った。しかし、後日しらべると、ハトが片足で立つことはまれではないということだった。このハトの近くに、別の元気なハトが近づくと、片足のハトは少し迷惑そうにしながらも、同じ姿勢を保ちつづけた。このハトは元気がなくてじっとしているのかと思った。

私はなんとなく可哀そうに思っ、ポケットにあった飴玉を私の足元に落としてみた。周囲にはほかに人がいたので、餌をやるのははばかれた。それで、ハトには食べられないであろう硬い飴玉を、ハトにではなく、私の足元に落としたのである。

片足で立っていたハトは、猛然と私の足元に歩いてきて、飴玉をくわえた。しかし、飴玉が硬いことに気がつく、あわてたように吐いたのち、飛び去って行った。このハトは怪我をしているのではなく、すこぶる元気だった。人の近くで怪我をしている弱いハトを演じることによって、餌をもらおうとしていた、というのが、最初に思いついた解釈だった。

しかし、別の解釈をすることもできる。このハトは疲れていて、一本足で休んでいただけである。そこへ大きな餌が落とされたので、千載一遇のチャンスと思って突進した。ここでは、なぜ人の近くで休んでいたのかという疑問が湧くが、おそらく公園にいる人は安全だと知っていたのだろう。一方、公園にあらわれるネコやカラスは危険な敵である。人の近くにいれば、ネコやカラスに襲われる危険も減ると思っていたのかもしれない。

公園のドバトについても、繰り返し観察しないと、本当のことはわからない。どのくらいの頻度で餌をもらえるのか、動き回って餌を探すことはないのか、ネコやカラスに対してどのように行動するのかなど、しらべてみたいものである。また、この個体のほかに、類似の行動を示す個体がいるのかいないのかについても興味がある。そこまで観察すれば、ハトの個体間関係や個性も明らかになるかもしれない。

終わりに

ここで紹介した2つの話は、動物の行動が直観的に想起させるものよりも奥深いことを示している。個々の状況で動物がどのようにふるまうのかは、すべて科学で解明されているように思われがちであるが、実際はほとんど研究されていない。別の言い方をすれば、誰でも自由に想像力をふくらませて動物を観察することができるということであり、その楽しみは無限に広がっている。

「道路を横断する臆病なハリネズミを助けるズキンガラス」の動画は、さまざまなタイトルをつけられて公開されている。

[ハリネズミを助けるカラス](#) (2026/7/31)